

## 地域住民の協同の力で環境を守ろう

宮崎 一郎 (神奈川県/上大岡学習文化センター代表委員)

私たちは人類の生活史上の最大の危機を迎えています。私たち人類にとって最も大切なものは空気です。水や食料はまだ選んでお金で買い求めて生活できますが、空気は選んで呼吸できません。この大切な空気が汚染され、きれいな空気が無くなってきているのです。

自然科学は人類の安全を守るための学問です。空気を汚すために悪用されてはなりません。私たちは地域に住む住民と協同して空気の汚れを調べ、きれいな空気を呼吸するという人類としての当然の権利、基本的人権と取り戻すにはどうすればよいかを考え、地球環境を守るための具体的な行動としてきました。

神奈川県では、川崎市を中心とした臨海工業地帯の大工場群から排出される大気汚染のみならず都市再開発により主要幹線道路や高速道路が住民の生活や健康を無視して建設され、それらの道路を無数に走行する大型産業車などから大量に放出される自動車排気ガスによる大気汚染が深刻な状況になってきました。その被害は都市部では工場や自動車から排出される有毒ガス中に含まれる二酸化窒素によって、大量に公害病患者を生み出し、川崎市では、きれいな空気を取り戻す公害裁判が11年間も闘われ、被告大企業や国の不当な裁判引き延ばしにより多くの犠牲者を出しながら、判決を目前にしています。

また、この汚染された空気は神奈川県の山間部までも広がり、酸性雨や霧ともなって丹沢山塊のブナ林をも枯らしています。

これは環境基準の緩和、指定地域の解除など、産業界の圧力による国の公害対策の後退のツケで毎年、二酸化窒素濃度の「最悪」を公表させるを得ないことや、世界各国で問題となっている「地球環境保全」への対応を余儀なくさせるを得ない国の姿勢ともなって現れています。

それでは、なぜこんなことになったのかと言いますと、都市の大気中には、燃料の高温燃焼によって生成する窒素酸化物が多量に含まれています。今まで気管支ぜん息、ぜん息性気管支炎、慢性気管支炎や肺気腫といった大気汚染による公害病の主因は、石油など硫黄分を含んだ燃料の燃焼によって生成する二酸化硫黄など硫黄酸化物によるものと思われてきましたが、石油中の硫黄分を除去しても公害病は減少せず、胸がしめつけられるように息苦しくなるような、新たな症状の患者が多発するようになりました。これは窒素酸化物による症状であることが現場の医師によって突き止められました。しかし国は産業界の圧力により二酸化硫黄の濃度が環境基準に合格したことを理由に、公害病指定地域の全面解除を強行しました。なんという非科学的、非人間的な暴挙でしょう。

去る11月3日「文化の日」に、神奈川県港南区の生協連などが協同で「協同組合まつり」をしましたが、私たち「上大岡学習文化センター」のテントの隣りでは、生協連の人たちが港南区の大気汚染を自分たちで測定したデータを展示していました。数百か所の二酸化窒素の濃度を色分けしたシールを地図に貼って示し、また横浜市全体の緯度経度メッシュのものも展示して、会場に来た住民に大気汚染のひどさを説明し、協同で大気汚染を測定し、空気をきれいにしようと訴えました。また、私たちの「文化協同」の運動もこの空気のように、毎日呼吸していても、生命を支えているという有り難さが意識されず、汚されても怒りを感じないようになっては手遅れです。

「文化」も「科学」も、上から与えられるものではなく、下から、人々の叡智で築き上げていく「協同」のものでなければならぬと思います。